

ビワ生育情報

千葉県
平成28年10月号

平成28年7～9月の気象

平成28年7～9月の気象は表1に示した。7月の平均気温は、第1～第4半旬は平年と同じか高かったが、第5及び第6半旬は平年より低かった。月平均気温は24.0℃で、平年より0.4℃、前年より0.5℃低かった。

降水量は第2及び第5半旬を除く4半旬で平年を下回り、第1及び第4半旬では降雨がなかった。月合計は114mmで、平年の66%、前年の38%であった。

日照時間は、第4及び第5半旬を除く4半旬で平年と同じか上回った。月合計は182時間で平年の108%、前年の88%であった。

関東甲信地方の梅雨明けは7月29日頃で、平年より8日、前年より19日遅かった。

8月の平均気温は第3半旬を除く5半旬で平年より高かった。月平均気温は26.0℃で、平年より0.1℃、前年より0.3℃高かった。

降水量は第2、第3及び第6半旬で平年を下回り、第2及び第3半旬には降雨がなかった。第1、第4及び第5半旬は平年を上回った。月合計は232mmで、平年の171%、前年の129%であった。

日照時間は、第2半旬を除く5半旬で平年を下回った。月合計は169時間で平年の78%、前年の86%であった。

台風9号が8月22日に館山市付近から上陸し、農作物や園芸施設等に大きな被害が生じた。また、7号及び10号が銚子沖を通過したが、直接の影響はなかった。

9月の平均気温は、第3半旬を除く5半旬で平年より高かった。月平均気温は24.0℃で、平年より1.1℃、前年より2.0℃高かった。

降水量は、第1、第2及び第6半旬は平年より少なく、第3～第5半旬は平年より多かった。月合計は239mmで、平年並み、前年の53%であった。

日照時間は、第1、第2及び第6半旬は平年より上回り、第3～第5半旬は平年を下回った。月合計は104時間で、平年の72%、前年の81%であった。

表1 平成28年7～9月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
7	1	24.2	22.9	21.1	0	38	190	40	21	1
	2	23.4	23.4	20.8	66	36	76	26	23	11
	3	24.6	24.6	25.8	1	36	0	28	25	56
	4	25.3	24.6	26.0	0	21	31	23	28	33
	5	22.0	24.8	26.0	40	22	1	23	32	46
	6	24.7	25.8	26.7	7	22	0	42	42	61
月平均/計		24.0	24.4	24.5	114	173	297	182	169	208
8	1	26.1	26.0	27.9	20	19	0	31	36	58
	2	27.2	26.2	27.1	0	26	0	42	36	53
	3	25.0	26.3	27.1	0	25	7	29	35	39
	4	26.4	26.0	25.8	75	18	98	11	35	6
	5	26.1	25.8	24.7	130	17	20	18	35	32
	6	25.4	25.3	22.2	7	32	56	38	40	9
月平均/計		26.0	25.9	25.7	232	136	180	169	217	197
9	1	25.9	24.8	24.9	15	26	29	37	30	25
	2	25.8	24.4	23.2	11	48	278	30	28	4
	3	22.8	23.6	22.7	63	24	0	1	25	39
	4	23.3	22.8	20.7	82	45	102	7	23	16
	5	21.9	21.4	20.4	67	49	34	7	21	24
	6	24.4	20.4	20.3	2	47	8	21	20	21
月平均/計		24.0	22.9	22.0	239	239	449	104	145	129

樹及び花房の発育

花房の発現期は表2に示した。「楠」は9月13日で、平年より3日、前年より4日早かった。「大房」は9月18日で、平年より2日早く、前年より1日遅かった。「田中」が9月14日で、平年より2日早く、前年並みだった。花房の発現は、3品種共に平年より早い。花芽（花房）数は、8月の日照不足の影響で平年に比べてやや少ないので、早期摘蕾等で寒害を回避し、病虫害の適期防除に努め、収量を確保するように管理する。

夏枝及び秋枝の発生は平年よりやや少なく、樹の生育はやや悪い。

表2 花房発現期(暖地園芸研究所)

品 種	本年 (月.日)	平年 (月.日)	前年 (月.日)
楠	9.13	9.16	9.17
大 房	9.18	9.20	9.17
田 中	9.14	9.16	9.14

平年：1986年～2015年の30年間の平均

台風による被害を受けた樹の管理

10月1日現在、6個の台風が日本列島に上陸した。本県のビワ産地では大きな被害はなかったが、倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病虫害雑草防除指針に従って防除する。

11月の管理

11月中旬には主要品種の開花が始まる。10月から引き続き行っている摘房・摘蕾は開花前に終わらせたい。アブラムシの防除は摘房・摘蕾の終了後に行う。

摘房・摘蕾

11月から12月にかけて摘房・摘蕾を行う。摘房では1樹の全新梢数の50%の枝に花房を残す。発育不良の花房や混み合った花房等を間引いて1樹内の花房数を調整する。

摘房を行うと、残した花房が充実するので、開花、結実及び幼果の初期生育が良好に進み、品質の揃った果実を生産することができる。また、余分な花房が少なくなるので、摘果作業が軽減される。

摘房と同時に摘蕾を行う。摘蕾では花房基部から3段目までの小花梗枝(花房の枝)の中から充実した2段を残して他をかき取り、花房内の花数を調整する。摘蕾は、残された蕾の充実を促すので、摘房と同様の効果がある。花房の長さが3～5cmに生長して、下部の2～3段の側花こうが分離した頃が作業しやすく、花房全体の開花期を著しく延長することができる。開花期が延長することによって寒害を回避しやすくなるので、この時期を逃さずに摘蕾を行う。

アブラムシの防除

ビワに寄生するナシミドリオオアブラムシは緑色大形のアブラムシで、ビワの葉裏の主脈に沿って加害する。寄生された葉は紅(黄)葉し、次々と加害しながら繁殖していくので短期間のうちに、甚だしい落葉を見ることがある。また排泄物はすす病を誘発する。

防除は発生状況を見て随時行うが、発生初期が効果的である。11月はナシなどから移ってきて繁殖期に入るので、この時期の防除は春の発生を抑えるために有効である。防除に当たっては、農作物病虫害雑草防除指針に従って行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>